



「ミャンマー・サイクロン早期回復のための農業支援事業」完了報告書(概要版)
2008年7月～12月
(財)ケア・インターナショナル ジャパン

事業概要

2008年5月2日から3日にかけて、最大瞬間風速約190キロ/時、カテゴリー3という非常に勢力の強いサイクロン・ナルギスがミャンマーを直撃。特に、イラワジ管区、ヤンゴン管区、バゴー管区、モン州、カイン州などの地域の被害は甚大であった。公式発表によると、死者及び行方不明者数は14万人近くに上り、国連の統計によると、250万人がこのサイクロンによる直接的被害を被ったとされる。

CAREは、サイクロン発生直後から食糧支援や避難所の提供、生活必需品の配布、水と衛生面での支援などを開始し、緊急ニーズに応えるべく活動を展開するとともに、調査に基づいた中期の支援計画を策定。ソニー株式会社様より、ニーズが高いにも関わらず資金が集まりにくい復興フェーズへのご支援を頂き、農地や種もみ、農作業用の家畜などの面でも被害の大きかった稲作地域における農業復興支援を行うこととなった。雨季の稲作時期に間に合うように支援を開始できたことは、被災者の生活の復興のみならず、ミャンマーにおける主要産業である農業復興の支援に寄与した。

事業目的

CAREは、ミャンマーにおける食糧安全保障及び生計向上活動を通じ、中・長期支援により、最終的にはサイクロン被災地域の食糧貯蓄を増やすことを目的とした。特に、農業、家畜、漁業支援などにより、対象となる地域の人々の食糧事情が改善され、また、収入が増加することを見込む。またソニー株式会社様よりご支援いただいた農業復興支援事業においては、被災者の食糧事情の改善、並びに生計向上の一助とすることを目的とした。

活動内容

CAREは、イラワジ管区におけるピヤポン、デディエ、ボガレーにおいて、次の活動を実施した。

- ・ 支援対象地に適した種類の種もみ5,000袋の調達・配布
- ・ ハンドトラクター50台の調達・配布
- ・ ハンドトラクターの配布に伴う燃料支援、及び維持管理支援
- ・ 受益者参加型モニタリング及び評価、ならびに外部組織によるモニタリング及び評価の実施

またトラクターに関しては、現地ニーズに即して以下の通り3種類を配布した。

- ・ 一輪タイプ:水田での利用以外に、他の部品と組み合わせて組立直したりすることで移動用として活用できるもの。村から水田が遠いなど、移動手段を必要とする地域にて配布。
- ・ 二輪タイプ:一輪トラクターよりも機能的であるが、移動には適していないため、村から近い場所に耕作地がある場合に配布。
- ・ ポートタイプ:ぬかるみの多い一部地域にて配布。

事業成果 ※受益者数:14,985人(種もみ配布)、11,881人(ハンドトラクター配布)

ソニー株式会社様のご支援により、CAREは田植え期間に間に合うように、種もみやハンドトラクター、燃料の提供などを通して、非常に重要な被災者支援活動を実施することができた。迅速な支援開始により、田植えのタイミングを逃さなかったことで、被災者の食糧事情の早期回復ならびに生計向上に大いに寄与。結果として、被災者の外部支援への依存を回避することにつながった。ミャンマーにおける主要な米生産地でもある当該活動地において、田植えの遅延は、大幅な収穫高の減少につながっていたと予想される。

さらに各世帯が交替でトラクターを広く使用することにより、直接の受益者だけではなく、より多くの人々が支援を受けることとなった。またトラクターの維持管理のトレーニングに加え、今後は、各村において維持の為にコミュニティファンドといった仕組みも必要に応じて確立していくことも検討されており、事業期間終了後も支援効果が継続していくことが期待される。



サイクロンにより、洪水の被害を受けた
水田の様子
© CARE



種もみを貯蔵する倉庫も土台だけを残して
すべてが流されてしまった
© CARE



配布されたトラクター。水の多い水田用には先端
がボートようになっており、実用的になっている
© CARE



早い段階で配布されたトラクターを活用して
田を耕す様子
© CARE



誰がどれだけ受け取るかを、
その基準とともに提示し、配布の公平性を保つ
写真は、種もみ配布の様子 © CARE



CARE の支援で実った田んぼ
© CARE